

# 国際ロータリー第 2640 地区 2017-2018 年度 地区協議会会長部門・クラブ会長会議議事録

開会日時 2017 年 5 月 14 日（日）  
13：00～16：20  
開催場所 ホテルアバローム紀の国  
出席者 別紙のとおり 注：別紙については、掲載省略

## 1、開会

司会三木幹事補佐より開会宣言後、出席地区役員の紹介

## 2、岡本ガバナーエレクト挨拶

## 3、議長等の選出

司会の三木幹事補佐より議長選出方法について諮ったところ、司会者に一任するとの意見があり、全員より拍手にて承認を得たので、議長として地区代表副幹事の豊田泰史を指名する旨が告げられ、全員の承認を得た。

続いて議事録署名人として池内清一郎氏（岸和田東RC）と野村壮吾氏（和歌山南RC）が指名された。

## 4、地区協議事項の審議

### (1) 第 1 号議案 クラブ分担金承認の件

岡本：RI 細則上、地区賦課金は次期クラブ会長の賛成によって決定するとなっておりますので、別途に提案をさせていただく。第 1 号議案として提案させていただくのは、地区基本賦課金及び地区大会賦課金で、この 2 つが賦課金になる。

地区基本賦課金については、去年と同じ会員 1 人当たり 2 万円、で、上半期は 7 月 1 日在籍の会員について 1 万円、それから 7 月 2 日から 9 月 30 日までに入会した会員については 5000 円を頂く、で、下半期は 1 月 1 日時点の会員について 1 万円、1 月 2 日から 3 月 31 日に入会された会員については 5000 円を頂くということで提案をさせていただく。これからいくと、例えば、10 月 1 日に入会された方については、上半期の賦課金は頂かないってことになるが、これはどこかで区切らないと、徴集が難しいため、このように一応切らせていただく。

次に地区大会賦課金ですが、今年度は会員 1 人当たり 5000 円ということで賦課金をお願いしたい。で、地区大会賦課金につきましては、当年度の 9 月末日までに入会した会員については 5000 円を頂くというふうに考えております。これは地区大会を迎える段階でまだ会員にもうなってるわけですから、例えば、8 月 1 日に入会した会員についても、やはり 5000 円を頂くと、こういう前提で提案をさせていただいております。以上、地区基本賦課金及び地区大会賦課金の 2 本を併せて賦課金ということで提案させていただきます。

議長：はい。そうしましたら、資料の 20 ページをもう一度よく御覧いただきまして、2 つに分けて審議を行いたいと思います。まず 1 つ目の地区基本賦課金、会員 1 人当たり 2 万円、これについて御質問がありましたらお願いしたいと思います。お名

前と所属クラブをお願いいたします。

野村：和歌山南ロータリーの野村と申します。一番目の地区基本賦課金についての質問ですけれども、この7月1日在籍を基準とするということなのですが、聞き及ぶところによりますと、基準の7月1日前に会員の退会があつて、1日を過ぎて2日、3日にまた再入会されるっていうようなクラブがあるように聞くんですけども、その点についてはどのようなお考えでしょうか。

岡本：賦課金でございますので、例えば、上半期の期間内に入会した人については幾らもらうと段階的に決めればいいんですが、まず事務的に煩雑ということと、決算の段階でチェックする上でも非常に難しくなりますので、どこかの段階で日を切つて、提案させていただいております。ただ、今、御指摘のいただいたようなことをされるクラブがあるとすればですね、それはもう、ロータリアンの本来の在り方として正しい在り方でないと思っておりますので、7月1日の段階で、本来そのクラブの会員であるならばですね、ちゃんと在籍していただいて、その方に払っていただくということでお願いしたいと思っております。そこはもう、各クラブとロータリアンの節度に委ねて、良心を信じて今期はやりたいというふうに思います。

野村：新規入会の方に対しては、これを適用するけども、再入会っていうか、継続ではないんでしょうけど、再入会の形を取られる方には、賦課金は納めいただくという意思表示はちゃんとされるという

岡本：そのようなことのないように各クラブでちゃんとやってほしいということは、もうこれはもう訴えるしかしょうがないのでね。ただ、形式的には、じゃあ6月末日退会してですね、じゃあ7月2日に入ったらですね、5000円になるんですけども、まあそのようなことのないようにですね、私の方からお願いするというので、この点、御了解いただきたいと思っております。

議長：はい。ほかに質問はございませんでしょうか。質問がないようでしたら、意見ございましたら、どうぞ。1つ目の地区基本賦課金について採決に入ります。RI細則16.060.2.によると、地区賦課金は、地区研修・協議会に出席された次期クラブ会長は4分の3以上の承認が必要になります。本日は68名の次期クラブ出席がということですので、その4分の3の51名の賛成がありましたら承認されたこととなります。それではお諮りします。全員賛成により、地区基本賦課金は承認可決されました。

議長：それでは2つ目ですが、地区大会賦課金についての審議に移ります。

地区大会賦課金、会員1人当たり5000円、先ほどの説明では9月30日までの会員という説明でありましたけれども、これについて質問はございませんでしょうか。(なし) それでは、意見はございませんですか。(なし) 私の方から質問ですが、そうするとこれは、基準日というのはどうされるんですか。

岡本：冒頭の7月1日の会員は当然お払いいただくんですけども、その後、入会された会員についても、9月30日まで入会された会員については、この5000円をクラブで払っていただくというふうに考えてます。本当は地区大会の前の日までとなるんでしょうが、事務的な問題がありますので、9月末日までに入会された会員については1人5000円を頂くことにします。これは、9月末までに入会された会員に

ついてはとりわけですね、やっぱり地区大会へ参加いただいて、地区の雰囲気ってのを理解していただくことが必要だと思いますので、参加していただくという趣旨からしても、その地区大会の負担金は、その9月30日までに入会した方は、新入会員であっても負担いただくと、そういう趣旨でございます。ですから基準日は7月1日から9月30日までと。例えば7月1日の会員で8月末に辞めたから払わんというんじゃなくて、7月1日の会員数は当然各クラブで負担いただくと、その後、入会された会員についても9月30日までの会員で5000円を頂くと、そういう趣旨でございます。

議長：それでは、2つ目の地区大会賦課金につきまして賛否を諮りたいと思います。全員賛成で可決承認されました。

(2) 第2号議案 地区予算案承認の件

議長：次年度の地区予算案についてお諮りしたいと思います。21ページからですが、説明をお願いします。

岡本：予算についてですが、地区賦課金と地区予算はR I 細則上、可決要件が異なります。地区予算は過半数のエレクトの賛成があれば承認されます。この内容につきましては皆さん方にP E T Sの第1回目のときからお配りしてるとおりで、先ほど、財務委員長の方から個別にも説明も頂き、私自身もまた重点となる予算の考え方についても御説明申し上げましたので、この冊子の21ページにあるとおり地区予算として御承認いただきたい。それとあわせて、ガバナー事務所経費に関しても内訳一覧と書いてありますが、これも予算案として提案をして、本日、承認を諮っていただくということをお願いしたい。ガバナー事務所経費につきましては、総額1000万余りになってますが、ガバナー事務所経費の内訳の承認された内容に沿って運用して使わせていただくということで提案をさせていただきたいと思います。

議長：それでは予算案につきまして御質問どうぞ。

池内：岸和田東の池内と申します。先ほどの地区賦課金のことで、7月2日から9月30日まで入会者5000円ということと、それから、地区大会賦課金につきましても、9月30日時点での会員で5000円ということと、一応、1900名を前提として予算化されてると思うんですが、これは新たな入会者も含んだ数なんですか。

岡本：何名をもって予算を組むかというのは、これは流動するものですから非常に難しいんですが、一応、7月1日時点の会員を1900人と想定して組んでおります。ですから、その後、増えればですね、予算的には少し収入が増えると、そういう前提です。

池内：はい、分かりました。それともう1つ。繰越金の関係なんですけれども、この予算では次年度繰越金が154万で、今年度の予算では前年度繰越金が1000万という形で、850万弱の差があるんですけれども、地区の運営の継続性という観点からすると、次年度の予算がかなり苦しくなってくると思うんですが、その点はどのようにお考えなんですか。

岡本：おっしゃるとおり、そういう問題点があるということはよく承知しております。

この年度に繰り越していただいた1000万については全部使い切ったらいいということではないんですけども、当年度で地区を大きく改革していく必要上、ある程度これを使わせていただくということで予算を組んでおります。その中で特に大きいのは、四十年史の地区史編纂引当金として300万を使っておりますが、これは当年度に使うわけではなくて、特別会計ということに組んで次年度へ繰り越します。そういうことで、300万は実質予備費若しくは繰越金に入るみたいなものなんですけど、予備費についても極力使わないようにしてですね、次年度へ繰り越すことによって、次年度の繰越金をできるだけ多く作りたいと思っております。ただ、当地区の全体の活動からするとやっぱりこのぐらいが要るということなので、次年度を考えると、今年度繰越金をこのように使った場合に、次年度なかなか運営的に資金が苦しいということであれば地区賦課金1万円について、場合によってはこれを収入面で少し改定することによってやっていかざるを得ないんじゃないかと。確かに今年度に繰越金を多く使ってて申し訳ないと思うんですが、趣旨はそういうことでございます。よろしくをお願いします。

議長：ほかに御質問はございませんでしょうか。はい。どうぞ。

山本：堺中の山本と申します。うちのクラブの方からも今質問にあがっていた前年度の繰越金と次年度への繰越金の予算についての差額がちょっと開きが大きすぎるんじゃないかっていう意見が出てるんですけども、それについて、何らかの説明文であったり、こういう意向でありますっていうふうな、クラブのみんなとか、その辺への配付できるような書面を求めることは不可能ですか。

岡本：今申し上げた、先の質問にお答えしたようなことであればですね、それは書面に書くことは可能かと思っております。今の点、ちょっと補足させてもらいますと、辻さんの年度で繰越金がこんなに大きなものになったというのは、元々、辻さんの年度の予算の中に繰越金がそのように組み込まれておったとか、過去の繰越金を入れたということではなくて、辻さんの年度は豊澤氏が解任され、途中から始まったわけですね。途中から始まったということで、少し資金的に使う額が少なかったらうということと、それと地区事務所、前年度の辻さんの事務所がまだ残ってる状態で豊澤氏が解任になりましたので、そのまま使えたということがありまして、出費が減ったっていうことだと思ってるんですね。ですから、特異な例として、ある意味ではかなりの繰越金ができたと。ですから、本来、今組んでる、1人1万円の4000万円という地区予算では、地区活動費の見直しなどをしない限り1000万の繰越金をつくれる状態ではないわけですね。ですから、今年度それを使わせていただくのは申し訳ないけども、発生した繰越金がそういう性質で残ったお金だったということと、それをまず御理解いただきたいということと、そもそも、4000万という収入の中で1000万を次年度に繰り越していくというのは、地区運営はそもそも無理が来てるんだということと、各クラブで御理解いただきたいなというふうに思っております。

議長：はい。質問ほかにございませんですか。では御意見ありましたらお伺いしたいと思っております。ないようですので、採決を採りたいと思っております。

林：堺東の林です。採決に入る前に先ほどおっしゃったですね、次年度からは400

0万ぐらいの予算で収まらないということについてですね、もう少しこれ、議論をしなくてよろしいのでしょうか。それはもう次年度のことは次年度ことっていうのはちょっと無責任な気がするんですけど、いかがでしょうか。

岡本：いや、次年度のことは次年度と申し上げたんじゃないくて、私が予算組みをする中で考えてる感想としましてはね、4000万という地区資金の中で、1000万という繰越金を次々つくっていくというのは、苦しいんじゃないかということをお願いしたい。ですから、次年度の予算として4000万丸々使うということであればですね、それはやっぱり、当該年度において、今年度は予算難しくなってきたという中でやっぱり、改定どうするかっていうことを提案してもらいべきであって、私が今の段階で、これで苦しいからもっと上げよというわけにはいきません。今年度はこれで組めますので提案をしなかったわけで、それは御理解いただき、決して次年度に対して無責任にやろうとか、そんなつもりは全くありませんし、私の年度におきましても、できるだけ残せるものは残したいと思っています。そういうことで御理解いただきたいと思います。

林：私の言ってるのはですね、今すぐに上げるとかうんぬんとかいうよりも、予算全体の縮小をしっかりと今から議論して図っていかなければ、今も会員数はどんどん減ってますので、当クラブでもですね、もう本当にもう10年ぐらいで、もうかなりの減少ってきております。という意味では、更にこの賦課金というか、その1人頭ですね会費を上げるようなことは到底考えられませんので、そういう意味ではですね、地区全体の予算もしっかり議論していかなければいけないんじゃないかということをお願いいたします。

岡本：予算を縮小するということは今の段階で非常に難しいんですが、まず負担の点ですけれどね、決してこれで当然だというふうには私は思っていないんですけども、ただ、地区が皆さん方をお願いする賦課金としては、この数年で随分下がってきてるわけですよ。2万円というのは恐らく最低になってきてるわけですね。地区大会賦課金も含めましてね。以前は、これにファンドという形で様々な賦課金がありました。それから地区大会賦課金についても過去には一律1万円というのがありまして、恐らくそれらを累計すれば年間1人4万円ぐらいの負担であったと思います。それが今、徐々に縮小、縮小しながらきて、今、2万5000円と来てるわけですので、徐々に減らしております。今年度につきましては更に減らしてるのはですね、例えば、今日の会議の運営費ですね、いわゆるPETSとか地区協についても、過去は1クラブ9万円程度のお金を徴収しておりました。これを強制的に取っておった。ですから、これに更に600万から700万、多いときはもっあり、そのぐらいの地区資金のプラスαがあったわけです。今回は、そういうものはなくて、地区資金の中でこの今日の催しも含めてすべて処理をしております、各クラブから負担金を取るというようなことやっておりませんので、これはもう随分、過去に比べたら縮小し減ってきてるんだということをお願いしたいと思うんですがね。で、その中で、会員も減ってきてる中で、しかも額も減らしてる中でね、このままずっと将来にわたって、この2万円ということではいけるかどうかについて、それは来年度予算組む、あるいは次々年度予算を組む段階でね、それは

やっぱり検討すべきことではないかと思っています。

議長：はい。ほかに御意見は。はい、どうぞ。

泉並：美原ロータリークラブの泉並でございます。25ページ見ていただきたいんですけども、年度の比較表ですね、こういう表初めて見させていただきました。これPETSですね、説明受けてます。で、これを各クラブへ持ち帰って質問あれば、これを解読してですね、質問に答えて、なおかつ、疑問なところはガバナーにお聞きするということでない、文書で出せってのは失礼なことじゃないかと思いますし、やっぱり、それぞれのクラブでですね、整理する必要があるんじゃないかというのが1つ。もう1点ですが、これ随分、勉強させてもらったんですけども、同じようなあれでありながらですね、年度によって項目が違っていると、で、これ毎年ですね、こういう形で統一されたらどうかと。今後はですね、こういう予算は、毎年同じような項目で処理するというのであればですね、非常に見やすいし分かりやすいし、我々もかえってですね、各会員に説明しやすいなというふうに思いますんで、これもですね、1つの改善になるかと思えますんで、それは是非お願いしたいなど。

岡本：今の御意見ですが、今回、過年度分の収支一覧表というものを出したり、あるいは過去の年度のガバナー事務所経費一覧表というものを出しましたのは、本来、今年度の予算とは直接関係ないわけですが、過去どのような予算を組み、どのような使われ方をしたのかというようなことを、きちっと分析した上で今年度を考えることが不可欠だと思いましたので、しかも、こ今年度ぐらいにこれをやっておかないともう分からなくなる。恐らく、皆さん、こんなものを見るのは初めてと思うんですが、是非それを見ていただきたい。特に私これ見て思いましたのは、今御指摘あったように、年度によって随分、項目のばらつきがあるわけですね。例えば、決算見たらですね、同じ項目について全部同じ金額のともあるわけですが、3年間全く同じって、本当にそんなことがあるのかなということ。例えば旅費など、3年間ずっと同じってこともあるわけ。そんなことあるのかなということが比較して見れば分かるわけですね。単年度で見れば分からないんですけども、比較して見れば分かりますので、その意味で、この表を付けさせていただきましたので、是非これを活用してですね、御検討いただきたいと思います。今年度の予算組みをすべて今後のガバナーに、このとおりやれっていうことは、私には権限がありませんから何とも言えませんが、一応、今回はかなり整理をしましてですね、項目についても、できるだけ整理するように予算立てをしました。それから、ガバナー事務所経費の一覧表についても、一応こういう項目があって、そこにはこれを当てるというふうにしましたので、できたら今後もこのような形でですね、やっていけば、過去との比較もできるんで、おっしゃる点は実現するんじゃないかと思っています。

議長：ほかに御意見、御質問はございませんでしょうか。はい。そうしましたら、採決させていただきますと思います。

賛成の方、挙手お願いします。はい。全員賛成だと思いますが、念のため反対の方、いらっしゃいましたら挙手お願いします。意見保留の方、挙手お願いします。

はい。全員賛成をもって予算案については承認されました。以上で、審議事項の方は終了いたしまして、次、協議事項の方に移りたいと思います。岡本ガバナーエレクトの方から、ご説明をお願いします。

岡本：まずですね、皆さんに御意見いただきたいと思いますのは、今年度の地区指針あるいは地区方針につきまして、何か御意見、あるいは御質問がありましたら承ってですね、できるだけその方針、指針というものが深められたものとして各クラブへ持ち帰っていただきたいと思います。よろしくをお願いします。

議長：それではまず、地区指針、それから地区方針について説明がありましたけれども、これについて、御意見なり御質問等ありましたらお受けしたいと思います。いかがでしょうか。

成川：ちょっと1つだけ、岡本ガバナーエレクトのお考えをお聞きしたいんですけど、岡本エレクトさんにおかれましてはGETS、それから1月の国際協議会、それから地区におきましても、PETS、本日の地区研修協議会、本当にすばらしいリーダーシップを発揮いただきましてですね、本当に透明化といいますか、よく分かる地区方針、地区の現状なんかも明確化にされまして、本当に敬服しております。で、1つ、地区の基本方針の中でですね、ロータリーの原点を再認識するという項目あるんですけども、これ、ロータリーの原点というのはですね、人によって、かなり考え方が違うと思うんですけども、どこに原点を置くかと、まあ社会奉仕に原点を置く人もおるし、職業奉仕に原点を置く人もおるし、あるいは、ロータリーのいわゆる親睦に原点を置く人もあるし、いろいろあると思うんですけども、岡本エレクトの考えられる原点というのはどういうものかちょっとお聞かせ願いたいと思います。

岡本：非常に難しい質問であり、口頭で簡単に答えるのは非常に難しい話ではあるんですが、提起している以上、そのような質問があつて当然だと思いますので、私の考えてることを述べたいと思います。で、これにつきましては、第1回のガバナー月信、若しくは第2回の月信のときに、私として、このロータリーの原点とは何だというふうに考えてるのかということについて文章で述べさせていただきますが、私が考えてるロータリーの原点というのはやはり、職業意識を基盤としたロータリーをきちっと確立するっていうことが原点でないかと思っております。職業奉仕というのは何かというのは非常に難しい質問で、答えも難しいんですけど、やはり、ロータリーは4つのテストを掲げておってですね、皆さん方は、本来はその職業部門の地域における代表者であるという形でロータリーを構成してるはずなんですね。ですから、その皆さん方が自分の職業において、4つのテストに照らしてですね、自分の職務を日々、実践していく。そのことが、その職業集団の倫理性を高め向上させる。そしてまた、そのような職業集団が地域にあることによって地域の奉仕が発展するというのがロータリーの本来の基本の理念だと思うんですね。そして、そのような理念を持ったロータリアンの集まりとしてクラブができ、そして、そのようなロータリアンの集まりとして例会を開き、その例会の研鑽の場を通じて個々人のロータリアンがですね、自らの見聞を広め、そして、人格的、倫理的な向上をそのロータリー活動の中で高めていく、個々人が高まっていくということですね。これがロータリーの基本的なやはり原点であると私は考えています。決して寄附をする

ことだけがロータリーの目的ではないし、また、皆でまとまって何か奉仕活動をするということだけがロータリーの原点ではないと思います。個々人が本当に自分が職業人として4つのテストに照らして恥ずかしくない実践を職業の中で行っていく。そのことをクラブに繁栄させてお互い研鑽しあう。その結果として、そのようなロータリアンの集まりとして、皆でまとまって社会に大きな奉仕をしていく、あるいは、その中で余力のある人は、自分の実践を通じて資金に余力ができれば寄附をしていく、そういうことがロータリーの本来の在り方ではないかと思っております。ですから、このようなことは今、R Iの研鑽の中でもなかなか、職業奉仕どこへ行ったんですかっていうような感じの今、国際協議会の研修ではございましたけども、でも、日本の参加されたエレクトの多くは、やっぱり、基本的に私と同じようなこととおっしゃってました。職業奉仕こそが本来のロータリーの原点なんだから、それを自分の地区で追求したいとおっしゃってました。ですから、私としては今言ったようなことをロータリーの本来の原点である、だからそれに立ち返ってロータリー活動をつくりあげていかないかん。そこからすれば当然大事なのはやっぱり例会なんですね。例会がなくしてロータリーはないと思いますので、例会においてお互いが刺激しあって、そして向上しあう。親睦は大事です。でも親睦だけが目的ではないです。寄附だけが目的であれば寄附団体。そのような団体は日本でも世界でも幾らでもあります。でも、我々が違うのは、そのことを通じて個々人のロータリアンが、精神的、倫理的に、人格的に向上していくような活動を行う。これがロータリーの基本的な原点でないかなというふうに私は思っております。そのようなことを、この年度の地区において、各クラブにおいて、是非、追求していただきたいというのは私の考えているところです。是非できましたら、各クラブの中で会長さんが月信で、このガバナーこんなこと言ってるぞっていうようなことを紹介いただいてね、そのことを契機にして、またクラブでそのようなお互いに意見交換をして深めていただけたらどうかなと思っております。

議長：私の方からもお聞きしたいと思います。1つは協議事項の中の1つとしてですね、次年度、例の豊澤氏の地区資金問題への対応ですけども、この辺はどういうふうにお考えになってますか。

岡本：我々が追及できるのは、彼がPETS・地区協のためにと言って、1クラブ9万円ずつ集めました。これは強制的に、払わないと参加させないという形で集めたわけで、これは強制的な賦課金でございますので、これは明確な地区資金になるはずなんです、ですから、当然、解任されようと何しようと、自分が皆さんから強制的に預かったお金ですから、その収支がどのようになったかっていうことを報告すると、これはまあロータリーでなくても、どこの世界でも当たり前のことですよ。でもこれをしないというのは結局、これは横領と言われても仕方ないと思うんですね。目的を持って集めた金について、期限が過ぎても収支を明らかにしないで、恐らく彼が行ったPETSと地区協の規模、会場からすれば、そんなに金は要ったはずはないので間違いなく余っている、それを引継ぎもしないというのは横領です。ですから、我々はロータリアンとして、先ほど言いましたように、倫理の向上を当然、我々の目的にしてるわけで、このようなことが発生して、これについて何も言



わないというのは、社会に対して顔がないと思うんですね。ですから、私は少なくともこのような横領を働いたものに対しては、地区として明確に、やっぱり何らかの対応するべきだというふうに思っております。ですから、できましたら、福井さんの年度で少なくとも、これだけは、ちゃんと地区に返せっていうことを正式に文書で通告していただきたい。それを私の方がそれを引き継ぎますのでね、ガバナー名で告発することはできますので、そのような対応をしたいというふうに思っています。以上でよろしいでしょうか。

議長：はい。それでは、もう1つ、会員増強に関してですね、次年度は、地区戦略委員会の方に、会員数が10人未満又はそれに近いクラブがこの地区にあるわけですが、そのクラブに対する支援ですね、活動支援等について検討をなさいたいというのが地区戦略委員会の方に委託されてるんですけども、皆様のクラブの方で、是非、地区の方でこういうふうにしてほしいとか、何かその点について御意見等ありましたらお聞きできればと思うんですが、いかがでしょうか。

A：6人の会員しかおりませんので是非お願いしたいんですが、1つはですね、会員増強のパンフレットいうんですか、それを地区でつくっていただければ有り難いなと、何年か継続して持てるように。それからもう1つはですね、規定審議会の件なんですが、非常に柔軟性があるんですね、会員増やすためには、規定は変えないけれども、各クラブの細則で対応していいよという話でですね、例会を月に2回にするとか、あるいはその会費を減額するとかいうのはあるんですけども、これについて、地区として各ロータリーに任せるということでしょうか。

岡本：会員増強に役立つ冊子というのは、なかなか難しいんですが、御希望を承りましたので、地区として積極的にですね、会員増強委員会と検討しながら、準備をできるものはしたいと思えます。次に、例会の回数を減らす、あれは、まあ例会の負担をもっと少なくして入会しやすくするという事について、RIとしては各クラブの自主性に任せるということになったんですが、辻さん、福井さん、ほんで私、それから檜畑さん、この4人の連名で地区内に呼びかけましたことは、少なくとも当地区内においては、従来のような在り方をできるだけ堅持するように、各クラブでその方向で努力いただきたいということは申し上げております。ですから、私自身もRIの役員ということになりますから、RIがそんなに決めてるのに、この地区内で緩めたらいかんというようなことを言う権限はもちろんないわけですが、少なくとも当地区の方向、在り方としては、できるだけそういうことではなくて、従来のような在り方を守っていきましょうよということと呼びかけたいというふうに思っています。というのは、会員、例会数を減らす、あるいは会費をどんどん下げていくということ自体は、それはそれで会員を増やす意味では一時的には有効かもしれないけれども、長い目で見たらクラブの力を弱めていくんじゃないか。要するに4回、毎週集まって会員の研鑽やってたものが、月2回になり、あるいは月1回になれば、それはやっぱりクラブとして何かやるということの力を弱めるし、例会を通じて、先ほど申し上げました会員個々人の向上を図るという面では更に弱まってしまうので、私個人としては、そのような方向には賛成してませんので、そうならないようにお願いしますという形で呼びかけていきたいと、このように思ってお

ります。

- A : ありがとうございます。というのはそのね、会員増強、皆、どこのクラブも1つの大きな目標になってるかと思うんですが、会員集めるときにですね、非常に柔軟なクラブに集まる可能性が出てくるんじゃないかなと、比較して。だから、その辺、規制するというのは非常に難しいかと思うんですけど、そういうことが出てくるとは限らない。といいますのは、我々は少ないですからいろいろと研究させていただきましたが、会員数が増えるクラブは、間違いなく夜型の例会時間に変えたところですよ。昼型でですね、会員増えてるところはどこもないんです。で、それをですね、3名ほど若い入会者に話すと、仕事の関係で昼は出られないっていうことで夜しようとしたらですね、年輩の会員がですね、夜だったら出られないと。ですから、たくさんおられるクラブの中でですね、比較的若い会員の方がいらっしゃるところはですね、夜の例会で対応して会員を増やすということもできるかも分かりませんが、高齢者の多いクラブはですね、夜に対応しようとしたら高齢者が出席できないというジレンマがあるわけなんですよ。だから、その辺はまだいいんですけど、入会金とか例会回数とかですね、あるいは月の会費とか、その辺で差額があって、何でもええからというふうになっただらいかなということなんで、まあその辺は常識に任すとしてですね、あともう1つはですね、先ほども6月に退会して7月にまた再入会という話ありましたが、この会員はですね、退会して入会する部分、退会すればですね、6か月は再入会できないとか、先月までこのクラブにおったのに、今月からこのクラブ、3か月先には別のクラブというようなことがですね、地区混乱した一番大きな原因やったかと思うんで、その辺のところはですね、地区としてですね、1つの区切りをつくっていただきたいなど。また、新しいクラブができるのにですね、IMの承認もなしにというのは問題で、今、分区という話になってですね、我々のところは非常にみんな仲良くやってるんですけども、新しい会員が入ってですね、地区大会と同時にIMがあったんですよ。IMの中で新人研修会あったりしてですね、新しいロータリアンが学ぶ機会が随分あったんですけども、昨今は新しい会員が入ってもロータリーを学ぶ機会、非常に少なくなってる。で、その1つの中にIMがですね、なくなってるっていうこともあるかと思います過去に良かった部分については見直ししてもらおうということを是非やっていただきたい。

議長：はい。分区のお話が出ましたので、分区活動の促進を言われてるガバナーエレクトの方からひと言ございましたら。

岡本：冒頭でも申し上げましたように、IMがなくなったということが過度に強調されてですね、一時期は、IMの類いのようなことをやること事態がRIから許されないんだってなことまで言われてですね、IMの活動がほとんど消滅してしまったってことがあるわけですが、地区の構成は、先ほどの私の図をもって示させていただきますように、分区というのはある意味では、国で言えば地方自治体なわけですね。だから、やっぱりその地方自治体たる分区がそれぞれ活発に活動し活発に動くことは、全体としての地区も良くするし、その下のクラブも生き生きして輝いてくるということになりますので、分区の活動というのは非常に重要だと

私は思っております。そしてその分区の中で過去にやっておったような様々な新人研修とかね、そのようなことをやることによって、例えば少人数のクラブであったらですね、例えば、今言いましたように6人のクラブ、あるいは10人以下のクラブであれば、新入会員が入ってもなかなか、その新入会員に対して、自分のクラブで独自にね、新人研修をやるって難しいと思うんですね。だけど、分区全体で新人を集めて、例えば、この1年間の新人を集めて、そして研修をするということは非常にやりやすいし、また、出席した新人にしても、あっ、自分と同じようにこの時期に入会した人がこんなにこの地区でおるのかなってことを認識すれば、やっぱりクラブというものに対して認識、より深まると思います。そういう意味では、分区の活動が活発であるということは、少人数クラブに対する非常に大きな支援になるというふうに私は考えてます。ですから、少人数クラブの支援というのを本当に真剣に考える必要があると私は思ってますので、そのためにも、分区の活動は、今期はより一層進展させていただきたい。もちろん分区を推進するについては、大阪であるとか堺であるとか和歌山においては若干、過去の経過の中で軋轢があったり、困難な点があることは十分分かっております。今日も実は、全クラブ出席とおったのに、金曜日の夜になって、夜ですよ、金曜日の夜8時頃、メールでですね、まあ何か誰か会員が亡くなったんでその追悼会するということですが、全員欠席しますというようなメールが突然入るわけですね。土曜日、地区事務所開けたから良かったんだけど、閉めておいたら今日になるまで分からなかったんですけども、でも、そのようなところを抱えてる分区はですね、まとまってやるっていうのは困難がある、それは十分理解しております。しかし、まあそういうクラブも含めてね、地区全体としては分区の中で融和が図られ、先ほど言った新人研修なども協力してやっていけるような分区活動を是非、今期、更に進展させて次につなぎたいと思いますので、今期は是非、分区をしっかりやっていただくということをお願いしたいです。そのためにガバナー補佐に方を十分活用いただいてね、ガバナー補佐のもとにやっていただきたいというふうに思います。以上です。

議長：はい、どうぞ。

B：会員数がたくさんいらっしゃるクラブの皆さんにはなかなか理解していただけないことかと思うんですが、先ほど、まあIMとか分区活動ということなんですが、実は、我々やってるときはですね、今年のIMの担当は誰だってことで順番に回ってたんですね。で、あるときに、ポシャったのがですね、当時、少ないクラブに回ってですね、ほとんどIM活動が停止してしまっただと。今、提案してるんですけども、IMの担当をですね、中心になるクラブは少ない人数でもそのクラブにするにしてもですね、毎年、各クラブからIM担当者1名ないし2名出してもらってですね、全クラブでIMをやっていくと、でないとも12クラブあったらですね、12年に1回しか回らんと、当たってこないということですね、どうしても、担当したクラブだけに重きを置いてもらうわけですが、弱小クラブの部分ですね、その辺が非常に負担が大きいわけですし、ですから、我々が提案してるのは、IMの担当者をですね、各クラブから出してもらう。で、中心になるのが少なくともそのクラブが中心になるにしてもですね、全部やっていく。そうすると、IMの活動に対

してですね、その10クラブが10クラブがですね、理解が深まるんじゃないかなというふうに提案してますんで、その辺のところもですね、御指導いただいたら有り難いなと思いますんで、よろしくをお願いします。

議長：はい。ありがとうございます。いいアイデアも御紹介いただきましてありがとうございました。今の分区の活動について、1組の方は次年度考えられてるところあると思うんですけど、三好ガバナー補佐の方でちょっと御紹介いただければと思います。

三好：はい。1組の新宮の三好でございます。近年やはりIMとかグループ活動っていうのが、地区の混乱が起きてからは全くできなくなってしまいました。特に紀南地区なんですけれども、各クラブも、結構離れて、新宮から白浜さんまでだと、やっぱり2時間弱ぐらい車でかかるっていう距離になるので、どうしてもお隣のクラブと交流が持てるっていう環境もなくなってしまい、IM活動が衰退してしまいました。ですけれども、今回、那智勝浦クラブさんの方から、ちょっと詳しいことはあれなんですけれども、那智大社創建1700年祭がありまして、それを絡めて、もう一度、1組の分区活動を祭りに集まっていただくような形を含めて、今回は那智勝浦さんが中心になっていただけるといいますけれども、そういう活動を次年度、再開しようと思っております。

議長：はい、ありがとうございます。で、最後、地区大会ですね、次年度が始まりましたらもう、すぐに地区大会が開催されるわけです。皆様の方で、この地区大会について何か、御希望であるとか御意見ありましたら、お伺いしたいと思います。いかがでしょうか。ないようですので、福井ガバナーの方から何かひと言ございましたら。

福井：どうも皆様、御苦勞様でした。PETSから始まりまして、岡本ガバナーエレクトのですね、説明内容、予算など、本当に的を得た内容でございまして、本当に私も感心しております。地区がですね、ますますこれから素晴らしい地区になっていくと私は確信しております。それぞれの内容につきましてですね、やはり今、岡本ガバナーエレクトがおっしゃっておられますように、いろんな御意見をですね、どんどんどんどんおっしゃっていただいでですね、地区が皆様方に開かれた地区になるようにという岡本エレクトのお考えだと思いますので、是非そういうことでよろしく願いいたします。本日は本当に御苦勞様でございました

議長：はい、ありがとうございます。最後に岡本ガバナーエレクトの方から。

岡本：本日は賦課金、予算につきましてですね、まあ皆さんが一致して御承認いただきまして本当にありがとうございました。その審議の中で出されました御意見につきましては十分、私の方で検討させていただきましてですね、自分の年度の運営の中にできるだけ取り入れて、それを消化する形で年度が進むように努力をしていきたいと思っておりますので、やはりそのために何と言っても会長エレクトの皆さんの御支持と御協力がなければ何事も進みませんので、これから1年間、本当に御協力のほどよろしく願いしたいと思います。それです、その1つとしまして、実は今年度は3回、会長会議をやると言っておりますので、日程も決まっております。最初は会長会議じゃなくて、エレクト会議になりますが、是非それにお集まりいただきま

して、その席で、まあ私の方でお願いしたいことが幾つかありますので是非お集まりいただいてですね、御協力いただきたいというふうに思っております。それが第1点のお願いです。で、もう1つは、2番目ですが、今日は実は米山なりロータリー財団の部門では、先ほど私は寄附することだけがロータリーでないとは言いましたが、かといって、それが発展することについては良いと思いますのでね、米山については過去、当地区はどのような実績があったかというようなことを報告、数字でされます。で、是非それを米山の委員長がクラブへ持って帰ると思いますのでね、できましたら、それを各クラブで紹介いただきましてね、当地区は、かつては米山の中で、全国で1人当たりの寄附額が一番であったこともありますし、あるいは累計額においても、過去の累計額で言うたら、7、8番目ですかね、ってことは過去にそれだけ大きく貢献してきたわけでありましてね、寄附が増えるということは、先ほど言いましたように、我々の活動が充実し、素晴らしいロータリーがあつてこそ増えるわけですね。ですからこの混乱の中で減っていったわけですが、これから我々が本当にこの地区を先ほど私が述べましたような形で発展させていくことができれば、当然寄附も増えてくると思いますので、そのような数字を米山の委員、あるいはロータリー財団の委員がクラブに持ち帰りましてですね、是非クラブの皆様にご紹介いただきましてね、その面でも積極的に前へ進むようお願いをしたいというふうに思います。以上、お願いばかりで申し訳ないんですが、そういうことで今年度いよいよ、まあ私の中では、1月に年度がスタートしたつもりでおりますので、今日は自分の年度の第1段階が終了する日であつて、決してスタートではないんです。でございますが、皆さん方にとってはスタートだと思っておりますので、いよいよ次年度に向けて各クラブもスタートしていくと思っておりますので、是非皆さん頑張ってですね、そして最後まで、自分の年度が終わるまで、俺は会長なんだ、そして、そのクラブにおいて最も輝いてください。トップに立つ人間が輝かないとクラブは生き生きしませんのでね、皆さん方は個人的に苦しいことがあつても、例えば今日は、家内とちょっとトラブルあつて面白くないわと思つて例会へ行つても、そのときはもう例会へ行ったら忘れてですね、常にその組織の長として生き生きと輝いて、そしてみんなを引っ張るというつもりでですね、この1年間頑張っていたきたい。私も十分な力はありませんけども、そのことは常に心掛けて頑張りたいと思っておりますので、これから1年間よろしく願ひします。本日はどうもありがとうございました。

議長：それでは地区協議会会長部門プログラム、これで終了させていただきます。ありがとうございました。どうも。

司会：議長どうもありがとうございました。議長、降壇お願いいたします。皆様、盛大な拍手で、よろしく願ひいたします。本日、欠席のクラブをちょっと御報告させていただきます。和歌山西ロータリークラブ、KUMATORI向日葵ロータリークラブ、堺フェニックスロータリークラブ、串本ロータリークラブ、堺フラワーロータリークラブが欠席でございました。それでは、副ガバナー前窪さん、御挨拶いただければ、よろしく願ひいたします。

前窪：最後の挨拶ということなんですが、私が10何年前にガバナーやりました。で、

この地区で会員が一番多かったのは1996年ぐらいが約4000名に近づいた時期、ちょうど今がその半分ですね。倍の人数がロータリアンであったわけですから、当然、それはなれる人がいるはずなんですけども、どうしても若い人がロータリーに魅力がないっていうか、入っていただけない部分が今あるんじゃないかと思えます。1つは、日本ではそうなんですけど、今、RIは、どんどんレベルを下げ、私流に言うとロータリーのレベルを下げ、人数を増やすつもりなんですけど、ここ10何年はもう120万以上、今、122万ぐらいですか。で、この今の時代で減ってるのは日本とアメリカ、会員がね。なぜでしょうか。それを皆さん、考えていただきたいんです。私が入らせていただいたのは47年前。入らせていただいたわけです。今は、入ってやっているとこの感覚なんじゃないんでしょうか。そこら辺を会長エレクトの皆さんは考えていただければ、とにかく1年たったらクラブは必ず1つずつ全員年を取ります。それが現実なんです。だから若い人を入れない限りは、ロータリークラブは逼塞するでしょう。だから皆さんにお願いするのは、来年の今、自分のクラブはどんだけ増えましたよと、そのひと声を聞きたいのがこのエレクトやと思えます。これは皆さんの肩にかかっているということを考えて会長を務めていただきたいと思えますし、来年の今日、皆さんに発言していただいたら、この10倍ぐらいの発言あるんじゃないかと思えます。会長になられればどんどん言えることがいっぱいになってると思えますので、そのつもりで頑張ってくださいと思います。よろしく願いいたします。

司会：前窪副ガバナー、突然の御挨拶ありがとうございました。それでは、これをもちまして会長部門の部門別協議会をお開きとさせていただきます。お疲れ様でした。